

佳作

「ありがとう」から始まった私の挑戦

宮城県石巻市立渡波中学校

2年 阿部 莉子

私には、将来に向けた一つの目標があります。それは、たくさんの地域の方と関わりながら、誰かのためにボランティア活動をしていくことです。自分の行動が誰かの笑顔につながることを知った私は、これからも地域に役立つことに挑戦し続けたいと思っています。

この目標を持つようになったきっかけは、今年の7月30日に起きたカムチャツカ半島沖での地震にともなう津波警報でした。そのとき、私の通っている中学校が避難所として開放され、地域の人たちがたくさん集まってきました。私もボランティアとして避難所の手伝いをさせてもらいました。初めての経験で緊張しましたが、普段の学校生活ではできない、貴重な経験になりました。

特に印象に残っているのは、避難してきた車いすに乗っていた老人ホームのおじいさんとのやりとりです。私が手伝いをしていると「ありがとうね」と言って、笑顔でハイタッチをしてくれました。その瞬間、私はとてもうれしくなって、自分の行動が人の役に立ったという実感がわきました。たった一言の、「ありがとう」が、こんなにもうれしい気持ちにさせてくれるなんて思いませんでした。この経験を通して、私はボランティア活動のやりがいと楽しさを知りました。

この出来事をきっかけに、「これからもっと、地域のためにできることはないかな。」と考えるようになりました。そして今、私は祖母の足もみ教室のボランティア活動に挑戦しています。地域の「みらい薬局」へ行き、大人の方や小学生に向けて、フットマッサージのやり方や、食育について教える活動を行っています。

初めは緊張して、うまく説明できるか心配でした。ですが、参加してくれた方々が笑顔で話を聞いてくれたり、「ありがとう」「気持ちよかったよ」と言ってくれたりすると、その不安は自然と消えていきました。特に、大人の方が興味津々に話を聞いてくれて、「また来てね」と声をかけてくれたことがとてもうれしかったです。こうした一つ一つの交流が、私にとってかけがえのない経験となっています。

このように、今の私はボランティア活動を通して、人と人とのつながりの大切さを実感しています。ただ誰かを助けるというだけでなく、そこには笑顔があり、感謝があり、あたたかい気持ちのやりとりがあります。そして、そうし

た経験が、自分自身の成長にもつながっていると感じます。

これまでのボランティア活動を通して、私は人の役に立つことのうれしさを学びました。私はまだボランティアの経験が少なく、ほとんど初心者です。分からないことも多くてとまどうこともあります。少しずつ覚えていきたいです。これからもっと参加して、自分にできることを増やしていけるように頑張りたいです。

また、勉強と両立しながら今までやったことのないボランティア活動にも挑戦してみたいです。たとえば、募金活動に参加して声をかける「支援を広げる活動」。高齢者や小さい子どもを助ける「人を支える活動」。地域のお祭りや行事を手伝う「地域を元気にする活動」などの、いろいろなボランティアに参加してみたいです。たくさんの活動を経験することで、自分にできることが少しずつ増えていくと思います。

「ありがとう」という言葉は、私にとってとても大切な言葉です。車いすに乗ったおじいさんのことを手伝ったときに「ありがとう」と言って、笑顔でハイタッチをしてくれた時の気持ちは今でも忘れられません。その経験があったからこそ、私は人の役に立てるようなことにもっと挑戦したいと思うようになりました。おじいさんとのやりとりは、私にとって大切な思い出であり、新しい目標を見つけるきっかけになりました。小さなことから、挑戦を続けていきたいです。